

環境モデル都市提案書（様式1）

タイトル	自然エネルギーと共に歩むまち「環の郷たかしま」の実現	
提案団体	滋賀県高島市	人口： 54,774 人 (平成20年4月30日現在)
担当者名及び連絡先	担当者の所属 氏名 産業循環政策部 環境政策課 岸田直樹 電話番号 : 0740-25-8123 ファックス番号 : 0740-25-8145 メールアドレス : kankyo@city.takashima.shiga.jp	
1 全体構想		
1-1 環境モデル都市としての位置づけ		
<p>平成17年1月1日に旧高島郡6町村が合併し誕生した高島市は、滋賀県の北西部に位置し、総面積は693km²（うち琵琶湖面積181km²）であり、滋賀県内では一番大きな面積を持つと同時に、森林面積も県下で最大の36,965haを持っています。</p> <p>市全体面積の70%を占める森林の豊かさは、水の豊かさに繋がります。人と自然、水を媒介とした森と人の繋がりが生活文化となっている姿は、持続可能な社会づくりの大切な形の一つです。水を繰り返し使う姿勢は、大量消費を前提とする消費主義とは対極にあり、木材は建築資材や燃料となり、水は田畑を潤しつつ、その流れの力から動力や電力を得ることも可能であります。</p> <p>「畑の棚田」、「ハツ淵の滝」、「海津大崎の桜」など、本市には日本の百選に選定された自然が11ヶ所あり、市民の誇りとなっています。地球温暖化という困難な問題を解決する力は、都市よりも地方に多くあると思います。本市のような自然豊かな地においてこそ、課題を解決するモデルになり得ると考えます。</p> <p>この豊かで魅力的な自然環境を次世代に引き継ぐには、市民の働きかけで持続可能な社会として機能させていくことが基本的な課題であることから、自治体版環境スタダードで市民監査委員制度の導入など、市民参加による自然エネルギーと共に歩むまちづくりを行っている。</p>		
1-2 現状分析		
1-2- 温室効果ガスの排出実態等	<p>高島市の二酸化炭素排出は、全体で約280,785t-CO₂/年と推計されました。排出量が最も多く推計されたのは、運輸部門のガソリンで約76,101t-CO₂/年となっており、次いで民生部門の灯油で約45,950t-CO₂/年、運輸部門の軽油約45,379t-CO₂/年、民生部門の電力約28,221t-CO₂/年となっています。</p> <p style="text-align: center;">部門別二酸化炭素排出量の推計値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業部門 59,745t-CO₂/年 (21.3%) ・民生部門 99,560t-CO₂/年 (35.5%) ・運輸部門 121,480t-CO₂/年 (43.3%) <p>高島市では、豊かな自然環境や地域資源を活用し、循環させ地域の人々が努力し、協力し合っつつっていく地域社会を「環の郷」と呼び、その実現に取り組んでいます。</p> <p>びわ湖に赤潮が発生したのを機に石鹼運動が広がり「菜の花プロジェクト」へ発展し、その発祥の地のひとつとして、第1回全国菜の花サミットを開催するなど、いち早く環境政策に取り組んでいます。廃食油の回収では、市全体で7万リットルを回収し、BDF燃料利用として保育園バス等19台に利用しています。市内には市民協同発電所が2カ所稼働しています。また、環境基本条例は市民提案であり環境基本計画も市民協働により策定しております。</p>	

	<p>公共施設では、木質バイオマスを利用した熱供給施設を建設し、特別会計にて先進的に実践しており、また太陽熱を利用した共同住宅、地熱利用循環換気システムにより大幅に電気を削減できた保育園などがあります。</p>	
1-2- 関係する既存の行政計画の評価	<p>計画の名称及び策定時期</p> <p>高島市総合計画 (2007年3月策定)</p>	<p>評価</p> <p>本計画のまちづくり理念を「お互いさま」と「おかげさま」が対流する「環の郷たかしま」の実現としている。 「環の郷たかしま」とは、豊かな自然環境や地域の歴史・文化、資源を活用し循環させるとともに、人々が努力し、協力し合って環となり、地域の自立と安心感を実感できる地域社会を表しています。</p>
	<p>高島市環境基本計画 (2007年7月策定)</p>	<p>環境の基本方針・理念を明らかにした「高島市環境基本条例」に基づき、各種の環境施策を総合的かつ計画的に推進するために環境基本計画を策定し、実践していきます。 水と緑と人を大切に、自然と共生するまち ～未来へ誇れる高島の環境づくり～</p>
	<p>高島市地域新エネルギービジョン (2008年2月策定)</p>	<p>基本方針 「環の郷」の実現 エネルギー・食料・ケアの自立 ・市民参加による自然エネルギーの革新的な仕組みづくりを行います。 ・市民出資等の実績を活かし、導入効果の高い自然エネルギー普及策をつくります。 ・近世の交通拠点から、現代の自然エネルギー普及拠点となり、先進的な取組を全国に発信します。 ・自然エネルギー産業による地域振興を行う先進地となります。 ・美しい里山資源を活かした自然エネルギー利用を行います。</p>
1-3削減目標等		
1-3- 削減目標	<p>滋賀県では温室効果ガス削減の取組において、世界や国内をリードしていくという姿勢のもと、2030年における温室効果ガス排出量(1990年比)50%削減を目指し、地球温暖化対策の取組を進めることとされています。 本市においても、こうした県の目標に合わせ2030年50%削減を目標に掲げ、本年度地域省エネルギービジョンの策定に着手することになっています。</p>	

1-3- 削減目標の 達成につい ての考え方	<p>持続可能な社会の実現のためには、地球温暖化問題に対応する「低炭素社会」、資源の消費を抑制し環境への負荷低減する「循環型社会」、自然と人間が共生する「自然共生社会」に向けた取組が必要である。具体的な取組については、省エネルギービジョンを策定する中で明らかにすることになってはいますが、達成には大きな変革が必要であり、ひとつにライフスタイルを見直し徹底したエネルギー需要の削減を進めることが第1であると考えます。次に温室効果ガスの排出の少ないエネルギーに転換や未活用エネルギーの利用など、削減する施策を同時に実施されれば、その効果は大きなものになると考えます。</p>	
	取組み方針	削減の程度及びその見込みの根拠
	<p>ライフスタイルの変革 使い捨てや大量消費のライフスタイルを見直し、省資源、省エネルギーを進めることにより、民生部門のCO2排出量の大幅削減を目指す。</p>	省エネルギービジョンにより明らかにする。
	<p>自然エネルギーの導入 太陽エネルギーやバイオマスエネルギーなどの環境にやさしい自然エネルギーの導入を進めることにより、産業・運輸・民政部門のCO2排出量の大幅削減を目指す。</p>	2008年2月に策定した新エネルギービジョンを基に推進を図る。
1-3- フォローア ップの方法	<p>フォローアップの方法については、行政と共に環境基本計画策定に携わった市民策定委員「高島市未来へ誇れる環境づくり推進委員会」や新エネルギービジョン策定に携わった市民委員が中心となり、事業者、地域団体、市民団体の代表などが加わった「高島環境市民100年会議」を設置して推進体制を構築し、今後の進捗管理や計画の見直しなどに努めていきます。</p>	
1-4 地域の活力の創出等		
<p>「環の郷たかしま」の「環」は環境の「環」であり、循環の「環」です。たかしまの豊かさは、都会型の豊かさではなく、自然との関係を取り戻し、エネルギー・食料・ケア（高齢者や子どもに対する）など、様々な面においての自立を図ることで、安心感を実現できる社会実現を目指しています。</p> <p>市内では琵琶湖から魚が産卵に上がってくる「うおじまプロジェクト」の取組が行われています。岩波書店の「世界」6月号に「たかしま生き物田んぼ」の取組が紹介されています。また、豊富な自家湧水を利用し、暮らしの水文化としての「かばた（川端）」がある地域がエコツーモデル地域となり、この地域の様子を紹介された写真家 今森光彦さんの映像が世界の映像コンクールで7つものグランプリを受けました。また、ラムサール登録湿地として葦群落の保全を図る、刈り取り・火入れも継続して行われています。平成20年4月に、高島市の豊かな森林の魅力を体験できる高島市森林体験学校が開設されました。そして、全長全80kmの中央分水嶺・高島トレイルが整備されました。このトレイルは藪に埋もれた古道やかつて使われていた山道を活かしたもので、各地で地元の人がこつこつと整備してきた登山道を5町1村の合併とともにつなぎあわせて出来たものであります。</p> <p>豊かな自然資源こそ最も持続可能なエネルギー資源であり、従来型の社会システムを変革することが、低炭素社会の実現につながり、これを進めていくことが環境問題の解決を図るだけでなく、地域福祉の向上や地域経済の活性化につながっていくものと考えます。</p>		

2-1 ライフスタイルの変革に関する事項		
2-1- 取組方針		
<p>環境マネジメントシステム(LAS-E)において、市民監査員制度を導入し行政の事務事業の省資源・省エネルギーを推進しています。この環境に配慮した取組を市民全体に広げていきます。</p> <p>また、省エネルギービジョンを策定することで、具体的かつ効果的な取組を明らかにし、実践していくことにより、使い捨てや大量消費のライフスタイルを変革させ省資源・省エネルギーを進め、民政部門のCO2排出量の削減を目指します。</p>		
2-1- 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減見込み・フォローアップの方法
<p>(a)環境基本計画の実施</p> <p>環境基本計画の中において、目標達成のための具体的施策および早期に実施していく率先プロジェクトを明記しており、これらを実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の保全 ・自然環境保護対策、環境に配慮した農林漁業の振興 ・循環型社会の実現 ・地球環境の保全対策 	<p>高島市・高島環境市民100年会議</p> <p>H21年～</p>	<p>環境の総合計画である高島市環境基本計画の進捗管理を環境マネジメントシステムにおいて管理し、事業の進捗や効果の把握を行う。</p>
2-1- 課題		
<p>2030年における温室効果ガス排出量(1990年比)50%削減を達成するには、大きなライフスタイルの変革が必要であり、徹底したエネルギー需要の削減を進めることは言うまでもありません。</p> <p>私たちの暮らしは、豊かさを求め大量生産・大量消費により発展してきました。いったん手に入れた豊からの変革が必要であり、その手法・手段が課題である。</p>		

2-2．自然エネルギーの導入に関する事項		
2-2- ．取組方針		
太陽エネルギーやバイオマスエネルギーなどの環境にやさしい自然エネルギーの導入を進めることにより、産業・運輸・民政部門のCO2排出量の削減を目指す。		
2-2- ．5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) エコスクールプロジェクト 市内の小中学校等に自然エネルギー設備を導入し、利用を行うことで、環境学習の教材としての役割や普及啓発を図る。	高島市 H21年～	環境の総合計画である高島市環境基本計画の進捗管理を環境マネジメントシステムにおいて管理し、事業の進捗や効果の把握を行う。
(b) 公共施設新エネルギー利用プロジェクト 新設が計画されている総合病院や市庁舎において、新エネルギーの導入を行う。太陽熱利用設備を設置し、省エネルギーを図ると共に災害時のライフラインも確保します。	高島市 H21年～	同上
(c) エコツアープロジェクト 豊かな自然や文化を体験しながら、自然エネルギーを活用した観光施設や廃校を活用した宿泊施設などを活用し、森林セラピーやエコツアーの取組を行う。	高島市 H21年～	同上
(d) バイオマス利用プロジェクト 薪ストーブやペレットストーブ等の木質バイオマスの導入、生ゴミなど廃棄物を利用したバイオマス施設の導入を図る。	高島市 H21年～	同上
2-2- 課題		
財政力の弱い高島市においては、非常に厳しい財政状況であるため、事業実施の優先順位が低くなるを得ないため、自然エネルギーの導入が進まないことが課題である。		

高島市環境モデル都市提案書（様式2）

1 - 1 環境モデル都市としての位置づけ

高島市は、滋賀県の北西部に位置し、総面積は693 km²（うち琵琶湖面積181 km²）であり、滋賀県内では一番大きな面積を持つと同時に、森林面積も県下で最大の36,965haを持っています。市全体面積の70%を占める森林の豊かさは、水の豊かさに繋がります。人と自然、水を媒介とした森と人の繋がりが生活文化となっている姿は、持続可能な社会づくりの大切な形の一つです。水を繰り返し使う姿勢は、大量消費を前提とする消費主義とは対極にあり、木材は建築資材や燃料となり、水は田畑を潤しつつ、その流れの力から動力や電力を得ることも可能であります。地球温暖化という困難な問題を解決する力は、都市よりも地方に多くあると思います。本市のような自然豊かな地においてこそ、課題を解決するモデルになり得ると考えます。

1 - 2 . 現状分析

高島市の二酸化炭素排出は、全体で約280,785 t - CO₂/年と推計されました。排出量が最も多く推計されたのは、運輸部門のガソリンで約76,101 t - CO₂/年となっており、次いで民生部門の灯油で約45,950 t - CO₂/年、運輸部門の軽油約45,379 t - CO₂/年、民生部門の電力約28,221 t - CO₂/年となっています。

部門別二酸化炭素排出量の推計値

- ・産業部門 59,745 t - CO₂/年 (21.3%)
- ・民生部門 99,560 t - CO₂/年 (35.5%)
- ・運輸部門 121,480 t - CO₂/年 (43.3%)

1 - 4 . 地域の活力の創出等

「環の郷たかしま」の「環」は環境の「環」であり、循環の「環」です。たかしまの豊かさは、都会型の豊かさではなく、自然との関係を取り戻し、エネルギー・食料・ケア（高齢者や子どもに対する）など、様々な面においての自立を図ることで、安心感を実現できる社会実現を目指しています。

豊かな自然資源こそ最も持続可能なエネルギー資源であり、従来型の社会システムの変革することが、低炭素社会の実現につながり、これを進めていくことが環境問題の解決を図るだけでなく、地域福祉の向上や地域経済の活性化につながっていくものと考えます。

1 - 3 . 削減目標等

滋賀県では温室効果ガス削減の取組において、世界や国内をリードしていくという姿勢のもと、2030年における温室効果ガス排出量（1990年比）50%削減を目指し、地球温暖化対策の取組を進めることとされています。

本市においても、こうした県の目標に合わせ2030年50%削減を目標に掲げ、本年度地域省エネルギービジョンの策定に着手する予定です。

